

亀岡市佛教会報

第42号

亀岡市佛教会
(会長 眞福寺 満林晃典)
令和7年1月発行

令和6年度 人権学習

「市営火葬場 見学研修」のご報告

令和7年1月16日(木)、人権学習「市営火葬場 見学研修」を開催し、13名が参加しました。

僧侶として葬儀に際して火葬場を訪れる機会が多いものの、その運営の詳細について知る機会は限られています。当会では一昨年に市と災害時の協定を締結し連携を図っています。今回は、火葬場の設備整備に併せて、施設内部を見学させていただく機会を得ることができました。

研修冒頭に、満林会長より火葬場職員の皆様への感謝の言葉が述べられました。日頃より丁寧な所作で業務にあたられていることへの賛辞とともに、火葬場が地域社会に果たす重要な役割についても言及されました。

炉前ホールで、市の担当職員より施設概要について説明を受けました。現在の火葬

場は平成13年に供用を開始し、今年で24年が経過しています。亀岡市の火葬場は「前入れ・前出し」方式を採用しており、これは施設ごとに異なるそうです。1日に最大5回(死産胎盤を含むと6回)の火葬が可能とのこと。ちなみに、令和5年度の火葬件数は年間1035件でした。

バックヤードの見学

次に、炉前ホール横の扉から施設のバックヤードへ案内されました。施設内には3基の火葬炉が設置されており、それぞれが独立した操作パネルと燃料コックを備えています。炉は耐火煉瓦とセラミックスの三層構造になっており、作業スペースが高温にならない設計が施されています。

主燃焼炉では遺体を火葬し、上部に設置された再燃焼炉では公害物質を800度以上の高温で無害化しています。その後、集塵フィルターで微細な物質が除去される仕組みになっています。

火葬の工程と技術

標準的な燃焼時間は約60分で、想定条件

は体重60kg、棺20kg、副葬品5kg。体型や体重により時間が大きく異なるようです。炉の窓から燃焼状態を確認しながら燃料と空気の量を調整しています。特に腰回りは燃えにくいいため、しっかりとお骨にするために、技術的な工夫が必要だとのことでした。

また、火葬直後の遺骨の状態はさまざま、燃焼過程で飛散することもあるため、職員が収骨前に遺骨を人体の並びに整える「整骨」作業を行っています。



残骨灰の取り扱い

収骨後の残骨灰は施設で保管され、年4回、契約業者によって「遺骨」「有害物質」「有価物(貴金属等)」に分離されます。遺骨は指定の供養寺院に納められており、今年度は石川県七尾市の亀源寺となっております。なお、業者は毎年の入札で選定され、供養寺院もその契約により変わるとのことです。

今回の研修を通じて、火葬場での業務の実態や職員の皆様のご苦労について理解を深めることができました。

参加者一同、火葬場の重要性と職員の献身に改めて感謝の気持ちを抱きつつ、この学びを日常の檀務において活かしていきたいと感じています。

現在、亀岡市新火葬場基本計画が策定され、市ホームページで公開されています。具体的な内容は検討中とのことです。



令和6年度「成道会法要 厳修」

去る令和6年12月9日(月)に眞福寺にて、令和6年度成道会を行いました。

本堂にて成道会法要を厳修した後、坐禅修行しました。



冷え込みの厳しい一日でしたが、釈尊の成道に倣い、心静かに坐るひとときを持ちました。その後、別室にて茶礼を行い、臨済宗や曹洞宗の接心の話題で盛り上がりました。宗派による違いや共通点について新たな発見があり、参加者一同、深い学びを得る機会となりました。



ご案内

令和6年度「移動仏教講座」

来る令和7年3月10日(月)に本年度の移動仏教講座を行います。

昨年、国宝に指定された黄檗宗大本山萬福寺を拝観し、禅堂で坐禅する予定です。また、有名な普茶料理を昼食にいただきます。

その後、曹洞宗初開道場である興聖寺と世界遺産の平等院へ拝登させていただき、詳細は、別紙の案内をご覧ください。

会員同士の親睦を深める機会ともなりますので、皆様もぜひともご参加ください。

開催日:

令和7年3月10日(月)

行先:

萬福寺 (黄檗宗大本山)

興聖寺 (曹洞宗)

平等院 (世界遺産)

参加費:

3千円(1名)

